



港南中だより

令和5年12月号
港区立港南中学校



「誰か」のことじゃない 「人権週間」

校長 佐々木 希久子

1948年(昭和23年)12月10日に、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、すべての人々とすべての国々が達成すべき共通の基準として、国際連合は世界人権宣言を採択したことを記念し、12月10日を「人権デー」としました。日本では、1949年(昭和24年)から、人権デーである12月10日を最終日とする1週間を人権週間としました。第75回人権週間はテーマを「『誰か』のことじゃない」としました。様々な人権問題について、「誰かのことではなく自分のこととしてとらえ、考えていただきたい」というものです。

東京都では、人権課題として「女性」「子供」「高齢者」「障害者」「同和問題」「アイヌの人々」「外国人」「HIV感染者・ハンセン病患者等」「犯罪被害者やその家族」「インターネットによる人権侵害」「北朝鮮による拉致問題」「災害に伴う人権問題」「ハラスメント」「性同一性障害者・性的指向」「路上生活者」等を挙げていますが、どれも深刻で、解決すべき喫緊の課題です。

「誰か」のことじゃない。



また、SDGsの17の目標の中の「貧困をなくす」「性別に与えられない」「人や国の平等」など、人権につながる目標がいくつもあります。全校生徒が、この機会に改めて人権について「自分のこと」としてしっかりと考えていただきたいと思っています。そうして、生徒全員が自他の人権を大切にし、互いに思い遣りを持ち、笑顔で過ごしていただけることを心から願っていると同時に、教職員皆でそのような生徒を育成するよう、改めて尽力してまいりたいと存じます。

また、SDGsの17の目標の中の「貧困をなくす」「性別に与えられない」「人や国の平等」など、人権につながる目標がいくつもあります。全校生徒が、この機会に改めて人権について「自分のこと」としてしっかりと考えていただきたいと思っています。そうして、生徒全員が自他の人権を大切にし、互いに思い遣りを持ち、笑顔で過ごしていただけることを心から願っていると同時に、教職員皆でそのような生徒を育成するよう、改めて尽力してまいりたいと存じます。

「人間性」、この最も大切なこと

さて、先月は学校で学ぶ力についていくつかが触れさせていただきました。今月はその中の「人間性」について少し触れていきます。人間性とは国語辞典を引くと、「人間らしさ」や「人間のもつ本性」であると出てきます。もう少し詳しく書くと、思い遣りや気遣いといった心の内面のことと出ています。

では、学校で身に付ける人間性とはどういうことでしょうか。文部科学省の解説を紹介します。まず、学校では生徒一人ひとりが社会・世界と関わり、よりよい人生を送るために身に付ける力として「学びに向かう力・人間性」を挙げています。そしてそれは下のような情意や態度等に関わると思っています。

・ 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的にとらえる力。

・ 多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思い遣りなど。

こうした内面をもつ人であれかしということですが、幸せな、よりよい人生を生きていくには他者との関わりがとても大切です。人間は長い歴史の中で、ともに生きる家族や仲間を励ましたり助けたり競争したりして、自らを磨き、よりよい人間性を身に付けることを大切にしてきました。私自身は「よりよい」ことを希求することが人間の本質の一つであると考えています。自らをよりよくしていくからこそ、人間性を磨いていく。そのためには、自己を客観的にとらえ、時として我慢をしたり自分を変えたりしていかなくてはならないこともあります。それは、何か、無駄であったり、自分らしくなくなってしまったり不安に陥ったりすることもありますが、それは、何か、無駄であったり、自分のために動いて、その人が笑顔になると、私たちは自然に嬉しくなるものです。いろいろな悩みを繰り返しながら、でもやっぱりよりよくするために磨き続けていこうとする行動に多くの時間を費やすことが人間性の向上につながるように思います。

